



笠井かなえの活動レポート 12月議会報告

～子育て・介護をひとりぼっちにしないまちに～

みなさまのご意見、現場の声を
お聞かせください。

TEL・FAX：0940-37-0700

Mail：munakata@fnet.gr.jp



メール用
QRコード

一般質問

◆気候危機のさらなる悪化を防ぐために

国内外で様々な異常気象による災害が発生し、猛暑による健康被害なども起きている「気候危機」と言われる状況の中で、日本も将来の被害を最小限に抑えようと動き出しました。昨年10月8日に宗像市は全国で471番目に※「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。この宣言の目的である気候危機対策には一刻も早く取り組むことが必要であると考え質問しました。

※「ゼロカーボンシティ宣言」とは「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを旨とする。」

●ゼロカーボンシティ実現のためには

地球温暖化の問題は私たちの世代や将来の子どもたちが安心して暮らしていけるように、市と市民とが連携して日頃の生活の中で取り組むことが重要です。市は具体的な目標を示して、市民が自分の問題として関心をもって取り組めるようにすすめることを要望しました。目標を達成するためには二酸化炭素の排出削減だけでなく、二酸化炭素の吸収を考えることも大切です。海草や海藻は樹木と同じように二酸化炭素を取り込みます。これを「ブルーカーボン」と呼びます。宗像市が取り組んでいる藻場の再生は、地球温暖化対策としても有効な取り組みです。ゼロカーボンの取り組みは、宗像市だけでなく、周辺の自治体や県と連携することで効果的な事業が展開できると考えます。総合的に取り組む政策を進めるよう要望しました。

●市民にわかりやすく啓発を

「ゼロカーボンシティ宣言」について、市民から「カタカナでよくわからない」「市がすることだと思っていた」「宣言が出ていたとは知らなかった」などの意見が出ています。宣言の際に市の具体策も出していたら、周知されやすかったと考えます。具体策を発表するときは市民がさらに関心を持って取り組めるように、「気候非常事態宣言」を一緒に出すことを提案しました。



●子どもたちが活躍する時代も安心して暮らせる環境であるように

地球温暖化は将来を担う子どもたちにとってこそ重要な問題です。そのため地球温暖化問題を理解し、自分のこととして取り組んでいけるように環境教育は大切です。現在学校で行っている体験活動以外にも、新たにゼロカーボンに向けた環境教育を充実していくように要望しました。

〈市の回答〉

新年度に市役所内に中心となる組織を立ち上げる。そして、市民、事業者の意見を聞き、取り組んでいく。市ではすでに市民が実行している資源ゴミの分別、環境美化などがゼロカーボンシティの実現につながっているため、これから具体的な行動目標を示していく。

国連の機関によると、直近50年間で、世界的に気象、気候、水関連の災害の数は5倍に増えています。経済的損失は8倍に増えています。環境省によると、何も対策をしない最悪のシナリオの場合、日本では、2100年には最高気温が40度を超える日が増え、夏の外出は厳しくなると予想されています。この気候による危機をさらに悪化させないためには、脱炭素社会の実現に向けて、行政・企業そして市民がともにしっかり取り組んでいくことが重要です。

ここに注目

今回の議会の補正予算で、一般会計は、34億259万6千円増額し、408億811万5千円となりました。

記号式投票が廃止

宗像市長選挙の投票が、他の選挙と同じように自書式（候補者の名前を書き込む）になります。今までは、投票日当日の投票用紙には、候補者名が印刷してあり、○のスタンプを押す形式になっていました。期日前投票は、自書式で行われています。

今年4月24日にある宗像市長選挙から適用されます。



宗像市ゼロカーボンシティ宣言を進めるために

公用車に電気自動車を導入されます。今回の補正予算では、5台分と充電設備の設置費用として、1,139万円が計上されました。

今年4月から、市民協働環境部の中に「脱炭素社会推進室」ができて中心的に進めていく予定です。



小中校の体育館に空調を設置

避難所として使うことを考え、市立の小中学校の体育館に、空調が設置されることになりました。まずは、建て替えが行われる城山中学校の体育館に設置されます。今回の補正予算では、城山中学校以外の20校の体育館についての空調設置の調査費用として、305万円が計上されました。

